



ラックホールディングス株式会社

事業戦略概要説明資料

2007.6.6

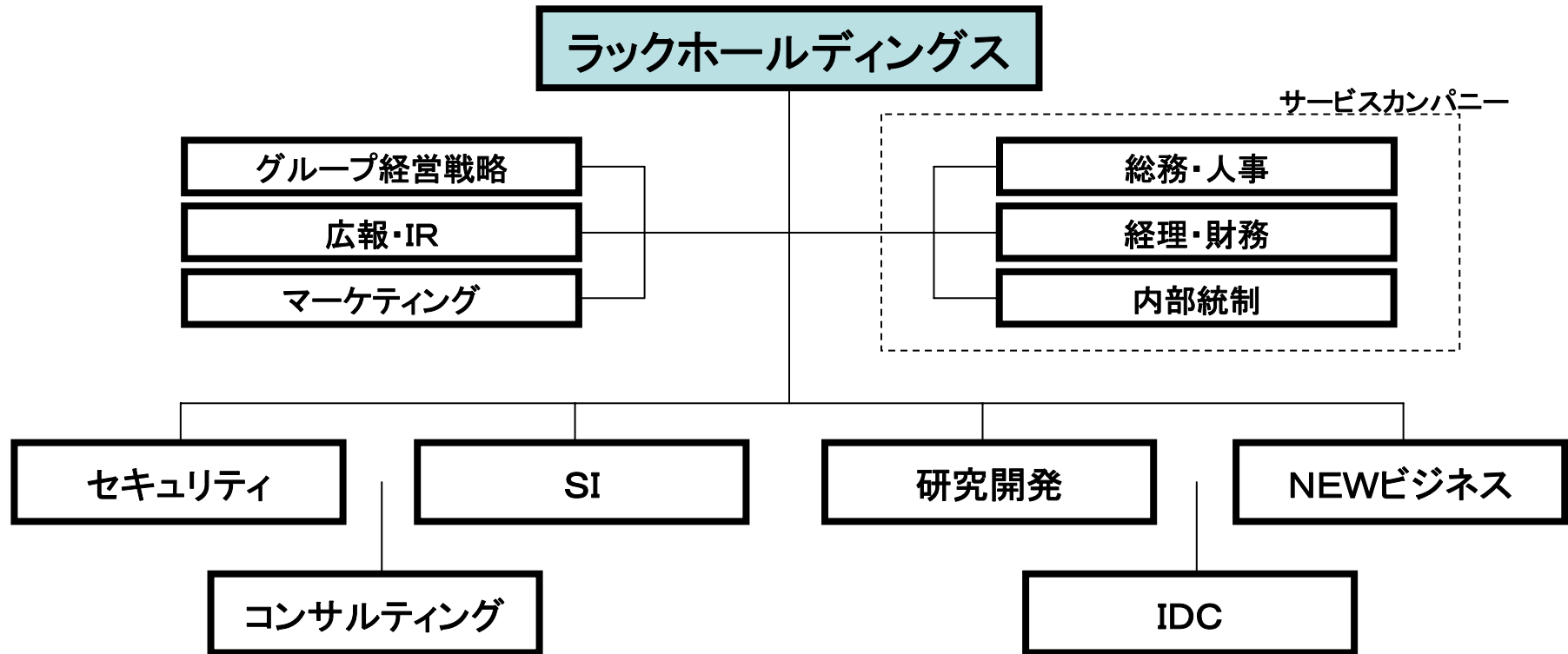
経営統合に至る経緯

- 平成16年11月 人材交流を開始
- 平成17年 2月 業務提携・資本提携を開始
- 平成18年 7月 経営統合について検討を開始
- 平成18年11月10日 経営統合の基本合意を締結
経営統合委員会(両社経営陣)発足
- 平成19年 4月1日 経営統合に向けてLAC社にビジネス
イノベーション・オフィス(BIO)設置し
担当執行役員を任命
- 平成19年 4月20日 経営統合の正式契約を締結

今後の計画

- 平成19年 6月28日 株主総会にて経営統合の承認
- 平成19年 7月末 経営統合に向けた経営戦略策定
(事業戦略、M&A戦略、財務戦略、他)
- 平成19年10月 1日 ラックホールディングス設立
- 平成20年 新戦略に基づく事業、組織の再編成

将来の事業組織イメージ

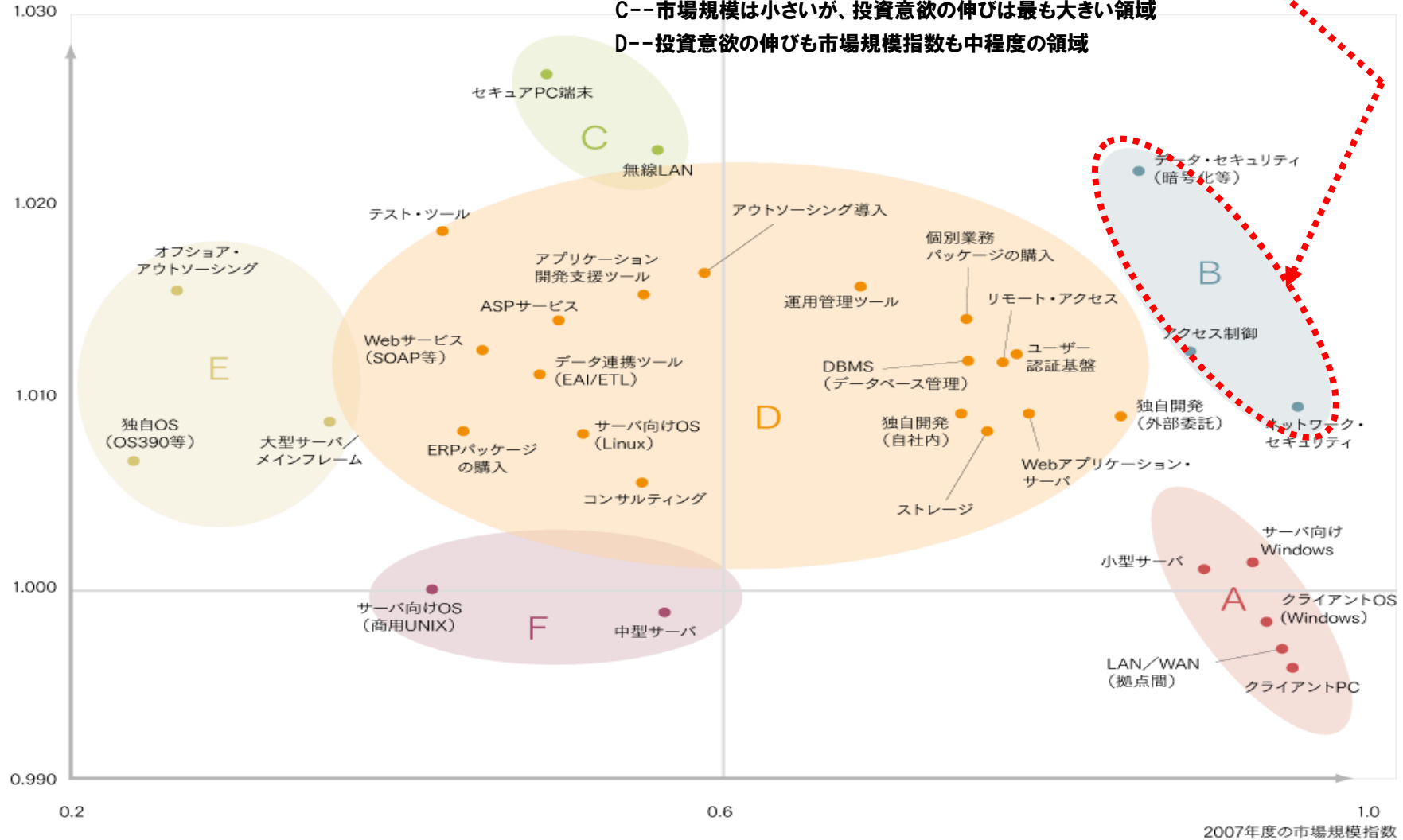


- 付加価値の高い事業分野への経営資源のシフト
- 事業の特性に応じた会社組織にて、より特化したビジネスを展開
- 総務、経理、内部統制などのグループ全体にかかわる間接部門は事業部門と分離し、サービスカンパニーとすることでグループ全体としての健全性と効率性を実現
- 戦略的なM&Aの推進

成長が期待されるセキュリティサービス

- A--投資意欲の伸びは微増あるいはマイナスであるが、多くの企業が投資意欲を示している領域
- B--来期における投資意欲が比較的強く、しかも市場規模が大きい領域
- C--市場規模は小さいが、投資意欲の伸びは最も大きい領域
- D--投資意欲の伸びも市場規模指数も中程度の領域

2006年度から2007年度にかけての投資意欲の伸び

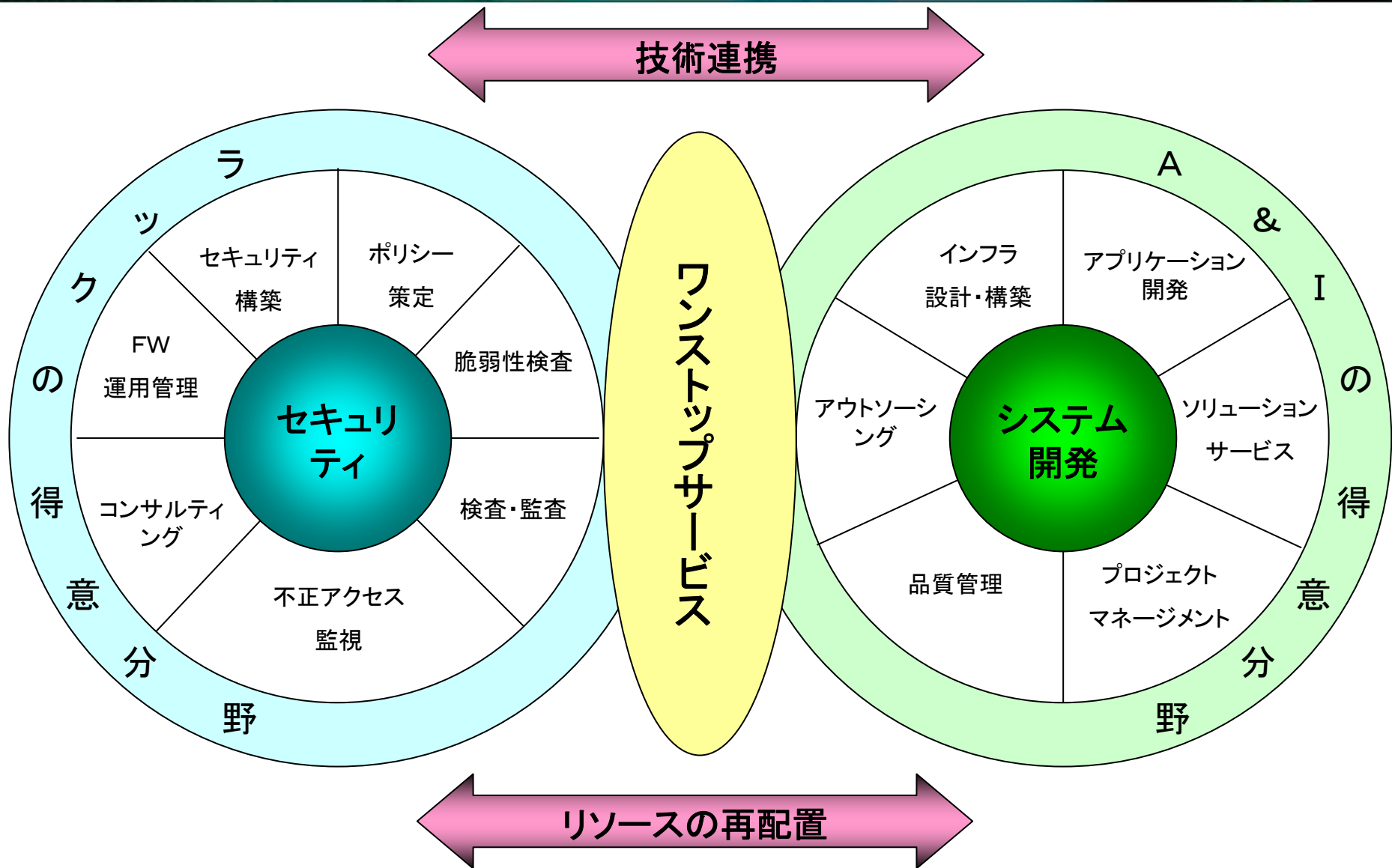


セキュリティサービスは今後も全般的に成長が期待できるビジネス分野であると判断できます。

ITR、CIO Magazine「IT投資動向調査2007」によると、情報セキュリティ対策に対する費用のIT支出に対する割合は14.5%、内部統制への対応費用は9.6%と高い割合を示しており、これらの合計は企業のIT予算の約24%にも達します。

このことは製品・サービスに対する投資意欲からも読み取ることができます。前述資料によるとセキュリティ分野は「投資意欲が比較的高く、しかも市場規模が大きい領域」とみなされており、IT統制とリスク対応のため、ネットワーク・セキュリティのみならず、データベース・セキュリティ、アクセス制御の分野において高いビジネス成長が見込まれています。

コンピテンシーの拡大による高い付加価値の提供



コンピテンシーの拡大

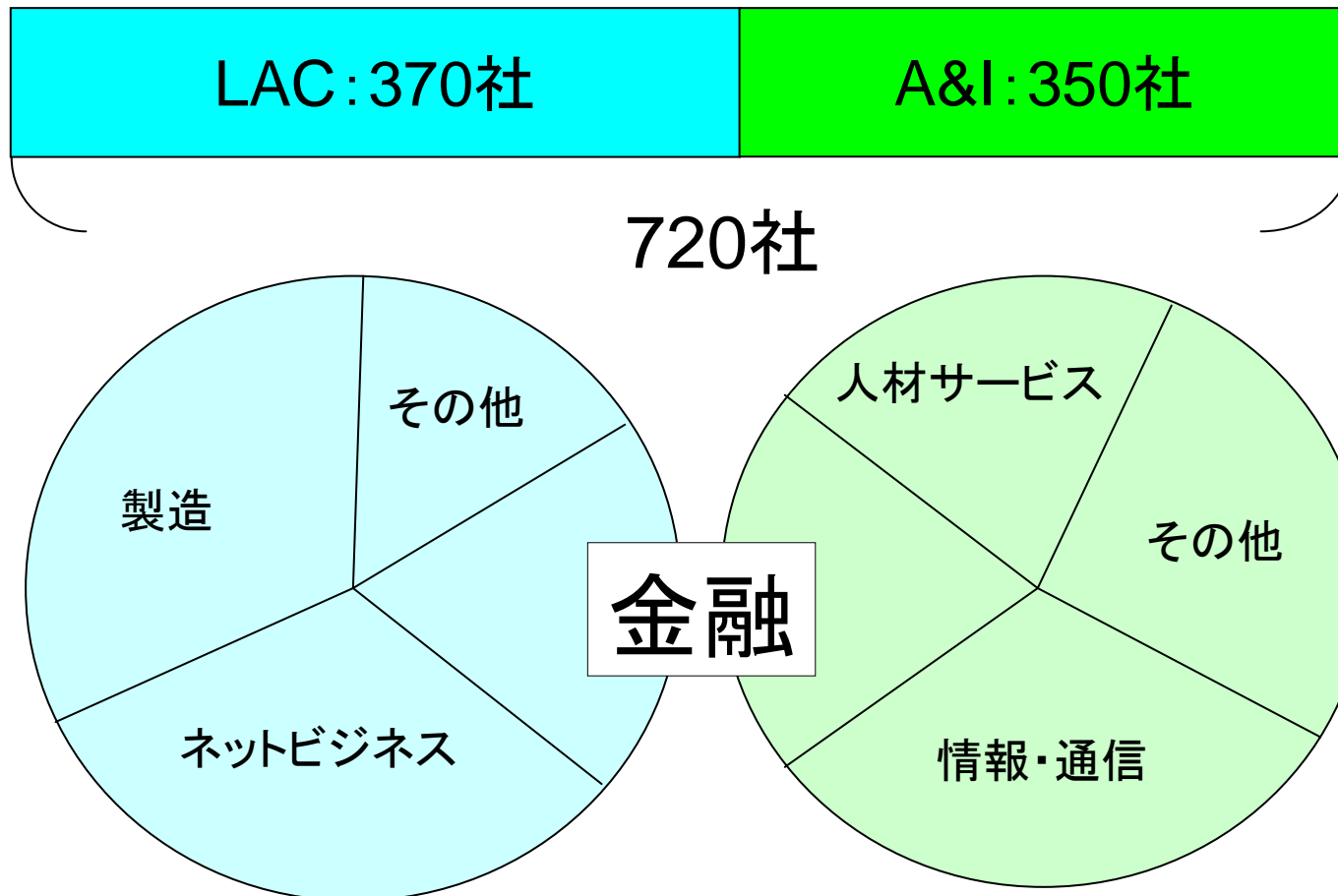
技術と経営資源の再配置による、高い付加価値の提供

LACとA&Iは、コンピテンシーの異なる企業であります。

LACは情報セキュリティにかかわる国内トップレベルの経験と技術をもち、A&Iは金融機関や官公庁へのソリューション提供現場で培った高信頼性・大規模システムにおける構築の経験・技術をもっています。

この両社の技術を相互に連携、人材の再配置を含めた最適化を行います。企業内部統制の要請に応えるべくセキュリティ技術を中心としてコンサルティング、システム設計・構築、プロジェクト管理、テスト、さらにJSOCにおける運用といった「ワンストップサービス」を提供してまいります。

顧客基盤によって広がるビジネスチャンス



顧客基盤の重複なくビジネスチャンス拡大

LACは主に製造、金融、ネットビジネス業界のお客様に、A&Iは主に金融、人材サービス業界のお客様にビジネスを展開してまいりました。

経営統合により拡大した顧客基盤によってより多くのビジネスチャンスを得ることができます。このチャンスを最大限に活かすべく営業力の強化を図ります。

重複している金融業界においても、互いのサービス内容は異なっており、ビジネスチャンスの拡大が見込めます。

金融業界、製造業界については、積極的な投資が見込まれることと、お互い得意な業種であることから、重点的な営業施策を展開いたします。

市場動向をふまえ、ラックホールディングスでは以下の事業展開を図ってまいります。

➤ 企業内システムへのセキュリティ機能の実装

✓ ネットワーク・セキュリティのみならず、企業内システム対象のセキュリティ対策である、アクセス管理、データベース、アプリケーション・セキュリティ分野にも注力してまいります。コンサルティングからシステムの設計・構築、監視システムの運用までをワンストップでご提供してまいります。

➤ 高収益ITサービス事業へのシフトと拡大

✓ 技術、内部統制などの環境により複雑化するシステム構築現場において、高いプロジェクトマネジメント力とシステムインフラ技術（高信頼性、高パフォーマンス）を活用し、高付加価値、高収益のSI事業へ戦略的にシフトし拡大してまいります。

➤ JSOCによる監視ビジネスの拡大

✓ネットワークセキュリティ分野において、国内最大級のJSOCを活用して監視サービスをご提供すると同時に、お客様における企業内SOCの構築をご支援してまいりました。SOCに求められる機能は年々高度化しており、大量のイベントの処理、高度な分析を行うSOC OF SOCの期待が高まっております。この分野に今後も積極的に投資を継続いたします。さらにお客様システム内におけるアクセスログ、イベントなどの監視、警戒など監視ビジネスの領域拡大を実施いたします。

➤ 新規ビジネスの推進

➤新たなテクノロジーやビジネスモデルの出現を見据えて従来の両社の強みを活かした新規ビジネスの創生に積極的に投資してまいります。

業績見通し

(単位:百万円)

	平成20年3月期	平成21年3月期	平成22年3月期
連結売上高	19,700	21,000	23,000
連結経常利益	1,100	1,540	2,100
(うちシナジー効果)	(150)	(200)	(510)
連結純利益	640	890	1,200

※平成20年3月期は、統合前6ヶ月を加え1年間とみなした数字です。

※各年度、のれん代償却130百万円が含まれています。(のれん代は650百万円で試算)

- 連結売上高は毎年約10%の伸びを見込んでおります
- 連結経常利益は毎年約30%の伸びを見込んでおります
- 3年後には経常利益率約10%を見込んでおります
- 経営統合シナジー効果を3年後約5億を見込んでおります

(売上伸長、利益率向上、経費・コスト削減)

参考: 仲田 聰 執行役員 略歴紹介

- 1976年東京大学理学部卒業。同年日本IBMにシステムエンジニアをとして入社し大手都市銀行システムのシステム導入・管理を担当。
- 1984年より85年まで米国IBM開発部門勤務。帰国後、大手都市銀行の第三次オンラインシステムの設計・開発を担当。
- 1995年アジア太平洋地域のシステムマネジメントサービス担当マネージャ、e-ビジネスサービス担当マネージャを歴任。
- 1998年セキュリティ・サービスの立ち上げを担当し、セキュリティ&プライバシーサービスの責任者としてコンサルティング、設計・構築、診断・監視サービスを統括。
- 次世代バンキング・ソリューション開発、ソフトウェア・ソリューション推進を歴任。
- 2007年3月末日本IBM退社。ただちに(株)ラック入社しビジネス・イノベーション・オフィス担当執行役員に就任。
- 「コンピュータ・テクノロジー」、「システムマネジメント」などの多くの技術書の著作、「日経情報ストレテジ」への寄稿、産業技術大学院大学・諮問委員、RSAコンファレンス実行委員など社外活動も積極的に展開。